

艦政本部長

第四部
第三部
會計課

一三五六

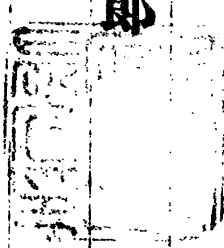
大正二年 九月 四 日

吳鎮守府司令長官 加藤友三郎

海軍艦政本部長 松本和毅

軍艦伊吹公試運轉ニ関スル件

軍艦伊吹、船体部ニ於テ「ビルゲキール」改造ヲ施行致候ニ付、竣工ノ曉ニ、艦船造修試験検査規則第九十三條ニヨリ、兩舷推進器前進中全力檢分ハ、以テ旋回力試験施行可致旨、處機關部ニ於テモ「タルビン」翼一部修理及噴口ノ換裝並ニ油冷却装置ノ改造等ヲ施行致候ニ付、右旋回力



0690

2.9.5

海軍

試験ノ序ヲ以テ標柱間往復一面全力試験施行

致度
右協議ス

(印)

(高橋是二機)

0691

供覽

皇

供覽

皇儲機密六一一號

大正三年十月十一日

吳鎮守府及長官代理

海軍中將村上格

海軍大臣野澤齋藤實殿

一軍艦伊吹修理公試運轉成績表一通

右進達

局員 別紙一通

別紙一通係官船區部

軍令部

軍務局

艦政本部

艦政本部

第一班
第二班
第三班

11

12

十月十日

0692

供覽

次官
海軍

軍務局

艦政本部

軍令部

大正二年十月二日

吳鎮守府司令長官 加藤友三郎

局員

海軍大臣 齋藤 實毅

第四軍 伊吹 公試運轉及旋回力試験、付

第三軍 伊吹 公試運轉及旋回力試験、付

回力試験、近ツキ候、付公試運轉及旋

轉及旋回力試験、施行ス

右報

十月七日 豫行運轉

合土口 公試運轉及旋回力試験

第一班

秋

第三班

海軍

10-16

10-1

十月六日 2十月

10-6

0693

起案罰紙

大正二年八月廿七日起案
起案者 捺印

九月一日發付
發付係 捺印

發付後起
案者捺印

提案 艦政本部長 松本

大臣

次官

參事官

副官

第一部

會計課

軍務局長



局員



校之ニシ

訓令案

大正二年九月一日

大臣

舞鶴鎮守府司令長官宛

號番

官房第一三六七

毎

毎

官本三三六

局・部	官房	軍務局長	人事	醫務	經理	司法	艦政	教育	臨建	水路	軍令
受月日											
發月日											

0694

8-28

海 軍

「コルソ」式速力計実験ニ関スル件

其府麾下軍艦阿蘇ノ装備セシ「コルソ」式速力計ハ航海ノ
時機ヲ利用シテ実験セシノ其成績ヲ報告スベシ
右訓令ス

海

0695

後

起案第一號

活

大正三年十月十日 起案 藤田 十月十日 發行 柴田 發行 櫻井

電氣 航海 豫算

整理掛 算注文掛

船政 10. 14

大正



艦政本部長

第一部

會計課



副官



軍務局長



局員



2. 10. 14

大正三年十月十日

吳鎮長官宛

次官

軍艦中藝技裝備ノシヤイロコシバニ試験成績件

二七九〇

海軍



0696



海軍

九月十日電報訓令、軍艦安藝裝
備のシヤイロコシハ、試験ハ、飛行動
時機ヲ利用シ施行上其成績ハ本年
中ニ到テスル様提出方御取斗相成度
右依令申上

3

0697

覽

艦政本部

軍務局

軍令部

舞鎮機 第二二號 三三

大正二年十月廿一日

第三舞鎮守府司令長官八代六

海軍大臣男爵齋藤實殿

驅逐艦追風公試運轉委員

並施行期日、件

別紙之通驅逐艦追風公試運轉委員ヲ

命之來ル十月二十日豫行試運轉同二十四日

修理竣工公試運轉施行、豫定、有之候

條理 第二班

右報告 班

出



0698

2 十月廿一日
十月三十日
10-21

(別紙 巻葉 添付)

(終)

0699

驅逐艦追

風公試運轉

委員

海老原啓一

海軍機関少佐

牧丸福元

同

牛丸福元

海軍大尉

藤田三他

海軍機関大尉

三木貞治郎

海軍機関中尉

竹田四郎

海軍造船中技士

山本浅太郎

0700

艦政本部

軍務局

海軍大臣

第三編ノ四四

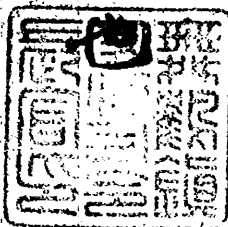
大正五年十一月七日

第四部 第三部 艦政本部 鎮守府司令官代理

會計課

警備部 茶山堂

海軍大臣 野村浩将 實殿



隨逐艦夕風公試運轉 委負至施行期日付
別紙通 隨逐艦夕風公試運轉 委負具ラ命
案上月十日付 施行試運轉 同十七日修 理改
送公試運轉 施行 依定、有之リ案
右報告具

(別紙ヲ添付)

2.1.1.1.1.

0701

2. 11. 7
軍務局 接 受
課

驅逐艦夕風公試運轉乗組員

海軍中佐 佐藤 孝一

海軍機園少佐 牧 元則

令 牛丸 福作

海軍大尉 牛島 繁

海軍機園大尉 三木 貞治郎

海軍機園中尉 萩原 舜治郎

海軍造船中技士 山本 謙大郎

0702

軍務局

艦政本部

六〇三

大正二年十一月八日

吳鎮守府長官代理

海軍中將村上格

海軍大臣田中義一

驅逐艦菊月、水無月、公試運轉、件

成二、候二分公試運轉、委負、命シ

左、期日ニ於テ、公試運轉ヲ施行ス

右、報告ス

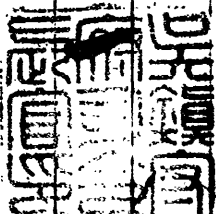
十一月十七日 菊月豫行運轉

十一月十八日 水無月豫行運轉

十一月二十日 菊月公試運轉

十一月二十日

海軍



軍務局 接受

0703

十一月二十二日

水無月分試運轉

（終）

海軍

行總社會業合紙佐土

0704

大正二年十月十九日起案
起案者 捺印

十月十九日發付
發付係 捺印
發付後起 捺印

大臣

監政本部長

次官

副官

參事官

第四部

第一部

第三部

會計課

軍務局長

局長

田農

局部	受月日	發月日
官房		
事務		
軍務局接受		
人事		
醫務		
經理		
司法		
鑑政		
教育		
臨建		
水路		
軍令		

大正二年十月十九日

次官

佐鎮司令長官宛

軍形出雲火藥庫冷却装置實驗ニ關スル件
右ニ關シ官房第三〇七五號ヲ以テ別紙寫シ

號番

三〇七五

大廳官房受

艦政

11-19

11-25

0705

通出雲航長訓令相成候條
右依命申進ス
別紙訓令寫并要領各壺通添

終

3502

0706

大正二年十一月十三日起案
起案者 捺印

十一月十五日發付
發付係 捺印

發付後起
案者捺印

提案

總政本部長



大臣 陸

副官



次官



參事官

軍務局長



會計課

第三部

第四部



大正二年十一月十五日

大臣

軍艦出雲艦長宛

軍艦出雲火藥庫冷却装置実験ニ関スル件

其艦特別任務中便宜「ルブラン」式及「リンド」式冷

官房第三〇七五

局部	受月日	發月日	官	軍務局接重	人事	人事	人事	經理	經理	司法	司法	郵政	郵政	教育	教育	臨建	臨建	水路	水路	軍令	軍令	

8050

0707

却機軸並に附属冷却装置ノ効力ヲ比較實驗シ
其成績ヲ報告スヘシ

右訓令ス

進テ實験ノ要領ハ海軍航政本部長ヲシテ通知セ

シム

(終)

(理由)

本航特別任務中ハ熱帯附近ニ至ルニキガ故此機會ニ於テ
本實驗ヲ行ヒ將來火薬庫冷却装置ノ計画
及製造上ノ参考資料ヲ得ントス

機本第 20-3

大正二年十月 日
 出雲艦長 P.P.
 軍務出雲大連庫に却装置実験ニ因ル件
 右ニ因シ上月喜百官房三〇七五号ヲ以テ訓令相成キ處
 実験ノ要領左記ノ通ニス
 左記
 一 海水温度華氏九叶度附近ノ海面ニ在ル場合ニ於テ機得
 ハ本年九月初旬里崎沖ニ於ケル実験ニ準シ施行
 スルコト

第一部長
 第四部長
 第三部長
 部員
 海
 外渡
 生手
 機

2115
 2115

機 11-16

0709

二前項より平常に冷印機使用中隨時必要を記録

ヲ採取スルコト

三吹込蒸気量、冷気器疏水量ハ第一項試験ノ

場合ハ差支ナキ限り計測スルコト第二項試験

ノ際ハ之ヲ計測スルコト及ハズ又諸記録ハ冷印機械

ニ付テハ毎一時間其他ノモノヲ付テハ毎二時間ニ

採取スルコト

右通列ス

3

化時録

0710

艦政 11-15

軍部員海軍

艦政本部長

第一課長

第二課長

第三課長

會計課長

部長

部長

大正二年十月

横工廠長

軍艦出雲丸薬庫冷却装置実験の件

全艦軍艦出雲特別任務中便宜の式及びリンデ式冷却機械

元々全装置の効力と比較実験すべき旨全艦長(訓令相成候)

就テ右実験を要スル諸設備と同シテ全艦長ノ請求ニ應ジ

可然便宜ヲ與ヘンノ様致度

右照會ス

終

艦本第四〇四號

(花)

0711

部長 外務

海軍

海軍

海軍

大正二年十月五日

四部長

出羽艦長 伊予

大蔵庫貯却装置曳野箇之件

右箇レ別紙另ノ通船政本部長ヲ横須賀工廠長宛

照會相成テ各御系知相成度

右申進ス

別紙一通係

終

艦本四葉八七七號

別紙一本ヲ四〇一四子一子

0712

紙 野 案 起

大正二年七月三日起案
 起案者
 捺印

十一月十九日發付
 發付係
 捺印

發付後起
 案者捺印

機案
 艦政本部長

第四部

大臣 陸

副官

次官
 參事官

會計課

大正三年十一月十九日

橫鎮司令長官宛

大臣

今日... 陸軍省... 陸軍大臣... 陸軍省... 陸軍大臣... 陸軍省... 陸軍大臣...

號番
 三二二七

軍令	水路	陸建	教育	艦政	司法	經理	醫務	人事	軍務	官房	局部
						陸					受月日
						陸					發月日

0713

管本訓令に置キ老旧駆逐艦雷艦一個其府工
廠ニ於テ別紙要領ニ依リ試験ヲ施行セシメ其
成績ヲ報告スルニ

右訓令本年十一月一日付

但し費用ハ既配付軍事費造船造兵及修理
費ヲ以テ支辨スル儀ト心得ヘシ
別紙要領書一葉添

(終)

(理由)

艦衰朽ノ模様ヲ充分調査シ將來ノ参考トスル
必要アルニ依ル

旧駆逐形雷罐試験要領書

- 一、罐内外腐蝕衰朽状況ヲ精査スルコト
- 二、罐ニ水壓力ヲ加ヘ復原セザル変形ヲ生ズル迄其ノ状態ヲ詳細調査スルコト
- 三、蒸氣室、水室等ヲ試験片ヲ切り取り材質ノ試験ヲ行フコト

天時

0715

古川
令為附一上中同為附一ト

艦政本部
第四部長
第三

艦政本部長		第四部長		部員			
會計課長	大正二年		艦政本部長	横工廠長	アテ	旧艇逐帆雷艦試驗三南五件	右三南官房第三二七舞ヲ以テ貴府
長官ニ訓令有之候ニ就テハ試驗着	手前詳細ナル試驗方案ヲ定メ豫メ	當部ニ協議相成度					

海軍

0716

											右申進ス
											終

海

軍

花
嶋
野

0717

製圖工場

起案野紙

大正二年十月七日 起案者 捺印

(提案)

艦政本部長

大臣 豊

副官

次官

参事官

十月二十一日 發付 捺印

第四部

第一部

第三部

會計課

軍務局長

局員

大正二年十一月二十一日

大臣

軍務局長 官房長官 試運轉件

發付後起 案者捺印

軍令	水路	臨建	教育	艦政	司法	經理	醫務	人事	軍務	官房	局部	受月日	發月日

0718 11-17

艦艇造修検査規則第七十三條ニ據
ル軍艦入金時ハ試運轉ハ此際執行ヲ要
ス義ト心得ヘシ
右訓令云

(終)

理由

軍艦金剛試運轉ハ領收前既ニ製造方法書
ノ規定ニ基キ造船監督官航政本部艦装
員之會ノ下ニ施行セラルタルヲ以テ更ニ本文ノ公
試運轉執行ノ必要ナシト認ムルニ由ル

一

軍務局

艦政本部

艦中

第四艇隊(二隻)元目下被備艇ノニナリ
以テ目下大湊ニハ活動シ得ハ平駈隊
艦水雷艇ナキ譯ナリ

句内限り

0720

12.11.25

0722

丁 艦政本部 諒

11-25

軍務局

程

兩駟之程、途修理、程多、等、同、
 程、中、部、内、子、其、全、十、大、積、り、不、日
 意、見、上、申、し、奉、り、候、
 ○今、年、亦、途、ハ、二、途、ツ、リ、殊、不、意、見、如、
 ○

0721

0721

0722

丁線
録
未
読

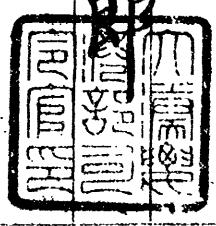
11-25

経済部

陸軍部第四六九

大正三年十月二十一日

大湊要港部司令官代理
海軍大臣志津田定一郎



0722

軍務局

海軍大臣男爵志津田定一郎

第四部
第一號
陸軍部

検査實況ノ件

第四驅逐隊鑛鑽通試験委員ヲ命ジ検査試験ノ實

況ニ關シテ別紙ノ通報者有之候條

右進達ス

別紙報告書並通添付

2.1125

清水

雷

海軍

第四驅逐隊罐鑽通試驗ニ付検査ノ

實況報告

日令第七〇号ニ依リ各艦艇罐鑽通試験ノ爲メ検査セシ實況ハ如シ

一、驅逐艦艦體

汽室、各罐ヲ通シテ甚クシキ點腐蝕ノ發生ヲ見ス

比較的良態ナリ胴體鏡板共ニ一般衰弱ノ徵少ナク

著シキ減厚ナキ見込ナリ

水室、各罐共外部發錆稍々甚シキモ之レカ為ニ特

ニ著シキ減厚ヲ来タセルモノトハ認め難シ内部ハ數個ノ

點腐蝕散在シ且ツ一部ニ溝狀腐蝕ヲ見キモノ發

生セシモノアルモ何レモ比較的深刻重大ナラスサレド各

水室若管板屈曲部ニ於テ全長ニ亘リ若クハ一部

亀裂ヲ生シ居ルヲ發見セリ依テ其ノ最モ甚キ

モノト認ムル第三號罐右舷水室ノ下部屈曲部

ニ徑 $\frac{3}{4}$ 吋ノ孔ヲ穿テ検査セシニ亀裂ハ現厚サノ

約 $\frac{1}{2}$ ニ達シ有効ノ肉厚僅カニ $\frac{5}{32}$ 吋内外ニ過キス

二 駆逐艦 曙

汽室各罐若一般ニ稍ヤ衰弱セルモノ、如ク廣大ナル

點腐蝕比較的多數ナリ殊ニ一、二號罐然リセル

ト何レモ概シテ深刻ナラス

水室各罐若外部發錆甚シク稍々著シキ減

厚ヲ来シセシヤノ疑アル個所アリ内部ハ全般ニ

亘リ點腐蝕隨所ニ散點シ且ツ概シテ廣大ニシテ

稍々深キモ之カ為ニ使用ニ危険ナリト認メ難シ

三浦 納

サレド各水室共管板ノ屈曲部ニ於テ全長ニ亘リ若ハ
 一部ニ亀裂ヲ生シ居ルヲ發見セリ依テ其最モ甚
 シト認ムル第四号罐丸形水室ノ下部ニ径 $\frac{3}{8}$ 吋ノ
 小孔ヲ穿テ検査セシニ亀裂ハ現厚ノ約 $\frac{2}{3}$ ニ
 達シ有効厚僅ニ $\frac{1}{8}$ 吋内外ニ過キス
 右ノ情况ニ依テ判断スレハ曬曝兩艦共罐水室ニ發
 生セル亀裂ハ甚ク深刻ニシテ且ツ該部ハ實質ニ變化
 ヲ來タセシヤノ疑アリ
 凡ソコライズボレリュアルノ作用ヲ受クル部ニ發生シタル亀裂
 若ハ溝狀腐蝕ハ最モ危険ニシテ其ノ程度極微ナリト
 雖モ決シテ之ヲ忽諸ニ附スヘカラス已ニ亀裂ヲ生シタル
 以上假令有効肉相當ニ厚シトスルモ其ノ強度ハ信頼
 ヲ措クニ足ラス引イテ破裂ノ原因トナレルハ事實實ノ證

0725

スル所ナリ

如上ノ理由ニ依リ西艦ノ罐ハ精細ナル検査及修理ヲ加
フルニ非ラザレハ低壓力ト雖モ使用危險ナリ依テ鑽通
切開水壓試験ヲ行フニ必要ナキモノト認め

大正三年十一月五日

第四驅逐隊罐鑽通試験官

海軍機關大尉 小森次郎 印

海軍機關大尉 小崎正 印

海軍機關中佐 檜目秀治郎 印

大湊要港司令部官柝内曾次郎 殿

0726

供養

濟

艦政本部

軍務局

軍令

供養

具此ハ... 委託セテ却テ... 呉々々々... 艦政

大正二年十二月十日

舞鶴鎮守府司令長官 八代六郎

海軍大臣 野澤實政

驅逐艦 疾風 公試運轉委員 茲施行期日ノ件

吳鎮守府司令長官ノ委託ニ依リ別紙ノ通驅逐艦

疾風 公試運轉委員ヲ命シ來十二月十三日豫行

試運轉 十二月十七日修理改造 公試運轉施行ノ豫

定有之矣條

右報告

第一班

第二班

第三班

紙一葉添

完



0727

21212

駆逐艦疾風公試運轉委員

海軍機関少佐 牧 元則

日 牛丸 福作

海軍大尉 塚本 克熊

海軍機関大尉 三木 貞治郎

海軍造船大技士 牛尾 平之助

海軍機関中尉 藤本 廣蔵

海軍

0728

軍務局

寫

No. 26/12

經 領 送

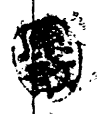
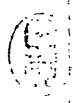
大正二年三月六日 午 〇時二五分 吳梅軍局發
大正二年三月六日 午 二時〇分 梅軍局着

受信者 梅軍大臣

電報譯

疾風公試運轉施行方善轉總守付司令
長友之委託一件電報御認可ヲ乞フ(了)

局員



海軍

0729

